

市民文芸

短歌

令和七年度
第五十四回阿南市秋季短歌大会 選

入選

喪の明けて炎天の下梅を干すバトンを受けし
日々の営み 岸 みどり
立ち止まりまた立ち止まり父母のまつ墓への石
段今年は遠し 鹿島壽美子
換気扇掃除しようと恒例の脚立に立てばしみじ
み独り 五島 秀子
手を通すそのときどきを悲しめり早も七年喪服
をたたむ 竹田 雪湖
ガラガラと氷をすくう音のしてわが家の子たち
に夏が近づく 東明 貴美
夫婦って何かつながっているみたい（丸い）が
あるのよ並んだ背中 島尾 妙
朝の陽に白いベールがめくられて早苗田広がる
桑野の里に 村上 富子
逆光に釣り人の影二つあり父と並んだ遠き岩壁
郡 雅和
歩み来て昭和の道の幾曲りかの日かの人あの日
あの事 神原 常経
十五年かかって咲きしサボテン花秘めたる思い
聞こえてきそう 十河 慶子
「暑いね」と「高いね」だけの夏が逝く蝸かな
かな哀しくなりけり 庄野 悦子
密林に倒れし兵の髭面に頼寄す軍馬は重き荷を
負う 神原 常経
眠りながら伸びをする子らやはり背は夜中伸び
るか父を追い越せ 金本ひろみ

俳句

阿南市俳句連合会 選

しゃぼん玉飛ばすよ風のやみし間に 岡久 玲子
日々感謝事前に送るカーネーション 形部 秀樹
天翔ける楠の群生青葉風 山野 賢治
美しき患者退院藤の花 駒木 幹正
食べ終へて言の葉探す初鯉 東條 明宏
チケットは完売ですと夕薄暑 吉崎 晶子
苗一把持ちて植田を見まはれる 金本ひろみ
版画展百歳祝う立夏かな 上荷 千賀
波引くを待ちて拾ひし桜貝 田中 栄子
藤房や香りをのせて競ひあう 柏木 暁代

川柳

阿南川柳会 選

きつと来るはずと福呼ぶ招き猫 表原 節子
老妻は新物好きで捨て上手 篠原 良子
生きている幸せ愛でる花の下 鈴木レイ子
この仔猫を飼って欲しいと持つてくる 多田紀久代
百寿まであと一息と励まされ 西田 修身
大風呂敷を広げてみても畳めない 野村 敏子
ボチボチのえん魔の誘い待たせてる 橋本 征介
一般応募
青田見る農婦に母を思い出す 島尾美津子
捨て台詞言ってみたが借りがある 武田 敏子
孫娘のカラオケ聞くと意味不明 福島 義明

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

牡丹を賞す 大野シゲ子
苑中千紫競新粧 苑中の千紫 新粧を競い
一笑紅衣壓衆芳 一笑の紅衣 衆芳を圧す
可賞牡丹眞國色 賞す可し牡丹 眞の國色
探花巡處散天香 探花巡る処 天香を散す
饒春偶感 高橋 静雄
薰風六朔入梅前 薰風の六朔 入梅の前
蜀鳥一聲山翠鮮 蜀鳥一声 山翠鮮やかなり
老去浮生惜春過 老去の浮生 春過ぐるを惜み
彷徨詞客寫詩箋 彷徨の詞客 詩箋に写す

津乃峰山

津乃峰山 吉形 和恵
津峰山色每回新 津峰山色 毎回新たに
千樹森森又絶倫 千樹 森森 又絶倫
淨域蕭條神坐境 淨域 蕭條たり神坐の境
橘灣眺望滌心塵 橘灣の眺望 心塵を滌う

